



TOWN HALL MEETING

製薬協、初のタウンホール ミーティング開催!

変化と挑戦を力に、未来を共に創る

2026年3月19日、製薬協初となる「タウンホールミーティング」を開催し、会場およびオンライン合わせて約700名がライブでご参加いただき、熱気と活気に満ちた対話の場となりました。本イベントでは正副会長が一堂に会し、現在推進中の組織改革「製薬協強化プロジェクト(製薬強PJ*)」や一般社団法人化を見据えた今後のビジョンについて、メンバーの皆さんと率直な意見交換を実施。

「変化と挑戦を力に、未来を共に創る」というスローガンのもと、製薬協の存在意義やこれからの役割を改めて共有する機会となりました。業界全体が一体となって新たなステージへと歩み出す。その起点となったミーティングの様子をレポートします。

*本プロジェクトは、製薬協の取組をより分かりやすく共有するため、協会内において通称として「製薬強PJ」と呼称しています。製薬協の公式名称やブランドを変更・軽視する意図は一切ありません。



製薬協強化プロジェクトとその先

今回のタウンホールミーティングの冒頭では、一般社団法人化の検討と製薬強PJについて説明があり、いま業界が大きな転換点にある中で、製薬協自身もこれまでの進め方を見直し、より機動力をもって戦略的に動ける組織へ進化していく必要がある、という問題意識が共有されました。

創薬技術の高度化や国際競争の激化、健康・医療安全保障への注目の高まりなど、業界は今まさに転換期にあり、製薬協としても迅速で機動的な対応が求められている——これが本プロジェクトを進める背景であると説明されました。

続いて、改革の中心となる取り組みとして、事務局機能や委員会の執行体制の強化、ガバナンス向上のための一般社団法人化の検討が紹介されました。これらは「産業ビジョン2035」を協会全体の共通指針とし、具体的なアクションへつなげるための基盤づくりでもあります。

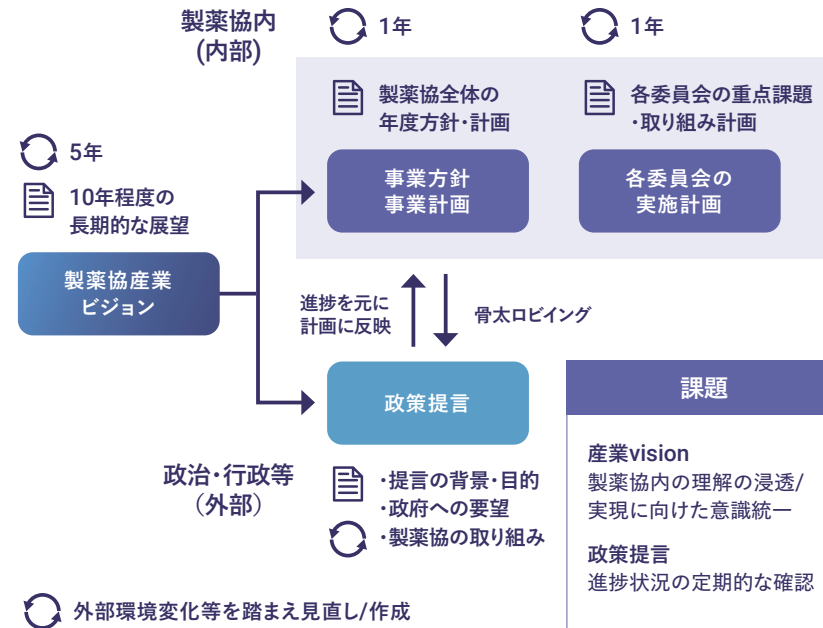
また、変革を具体的に進めるための取り組みとして、関税やMFN（最恵国待遇）など医薬品業界を取り巻く情勢の変化に起因する問題に対し、迅速な意思決定とインテリジェンスの一元的な集約を担う新組織「事業戦略本部」の設置も示されました。



製薬協強化プロジェクトの詳しい内容は、Newsletter229号(5月発行)でもご紹介しますので、ご確認ください。

Vision2035と政策提言2025の関係性

Visionの実現に向け、2年に1度政策提言を取りまとめている



製薬強PJを企画政策会議に設置し、25年7月より検討を開始

- TOPIC1** Vision2035実現に向けた共通理解の醸成
- TOPIC2** Vision2035達成に向けたアクションプランの事業への具体化
実施計画への落とし込み/政策提言2025の進捗確認(工程管理と更新)
- TOPIC3** 製薬協強化(執行体制/一体性強化)

組織変革



Q1 プロジェクトを加速させるため、委員会メンバーがまず取り組むべき行動は?



製薬協副会長
塩野義製薬株式会社 | 手代木 功さん

委員会ごとの縦割りを脱却し、活動が「日本発のイノベーションを世界の患者に届ける」という製薬協の存在意義に合致しているか確認しながら進む必要があります。また、社会や国に対する製薬協の貢献を見えやすくするため、メンバー自身が積極的に声を上げ、存在感を顕在化させることが求められます。そのためにも、委員長合同会議のような横串を刺す取り組みに期待したいです。

Q2 プロジェクトの成功に向けた最大のハードルは何か?



製薬協副会長
中外製薬株式会社 | 奥田 修さん

ハードルがあるとすると、「危機感の醸成」です。危機感がなければ変革の意義を納得することは困難です。これまでの取り組みを一度見直し、新しい方向に踏み出すことに抵抗が生じるのは当然ですが、まずは危機感を十分に感じたいうえで、ビジョン実現のために何をしなければならないか、各社・各委員会ですら改めて考える必要があります。

Q3 製薬協が今変えなければいけない点は何か?



製薬協副会長
アステラス製薬株式会社 | 安川 健司さん

過去に作られた古い法令や規制にただ従うという姿勢を変えることです。社会問題を解決するために、製薬協として論理的な政策提言や規制改革の要望を政府に対して積極的に行っていくことが製薬協の果たすべき役割だと考えます。

Q4 変革を進める上でメンバーに最も期待されていることは?



製薬協副会長
第一三共株式会社 | 眞鍋 淳さん

忌憚のない意見やアグレッシブな提案・発信をすることです。私は社内で常々「部下は提案するために存在し、それを聴けない上司はその任にあらず」と言ってきました。上司や経営陣は部下の提案を傾聴してマネジメントする責任があるためです。サイエンスにはヒエラルキーはありません。提案に対する議論も然りです。この改革を進めていくために皆さんの活動においてもどんどん提案して欲しいです。

Q5 グローバルの変化に対し、事業戦略本部と国際委員会はどう連携していくのか？



製薬協副会長
第一三共株式会社 | 眞鍋 淳さん

事業戦略本部と国際委員会の役割分担を明確にし、両者が適切に機能する体制を整えていく必要があると思います。国際委員会には、各国のローカルなインテリジェンスの迅速かつ正確な収集・共有や、グローバルサウスにおける知財問題を含むグローバルヘルス課題への対応など、国際環境の変化を踏まえた役割を期待します。

Q7 製薬協の戦略と個社の海外投資戦略などのギャップにどう対応していくのか？



製薬協会長
武田薬品工業株式会社 | 宮柱 明日香さん

製薬協は「産業ビジョン2035」を羅針盤として、個社ではできない大きなルール作りや環境整備（規制改革や提言など）に挑戦します。それにより、政策・制度の前進があれば、結果として確実に個社の利益につながると考えています。

Q6 委員の参加度合いを強化し、負担の偏りを減らすにはどうすればよいか？



各企業のトップが製薬協活動の重要性を社内に発信し、各社の優秀な人材（エース）を派遣し、業界活動で頑張った人を社内で評価する仕組みを作ることが不可欠です。

製薬協副会長
塩野義製薬株式会社 | 手代木 功さん



同時に、製薬協としても委員会活動が個人のキャリア形成につながるよう、充実した議論ができ、参加メリットを感じられる運営に変えていく必要があります。

製薬協理事長 | 木下 賢志さん

Q8 経団連などの経済団体との連携についてはどう考えているか？



製薬協副会長
アステラス製薬株式会社 | 安川 健司さん

経団連に対して、医薬品産業の現状や果たすべき役割（ドラッグロス問題や社会保障問題の実態など）を継続的に説明した結果、理解が進み経団連の提言内容も大きく変わってきています。今後も製薬協としてのプレゼンスを維持し、経済団体と連携していきます。



製薬協副会長
第一三共株式会社 | 眞鍋 淳さん

商工会議所の社会保障委員会とも連携して、皆さんの意見を踏まえた政策形成に貢献していきたいと思っています。

Q9 製薬協活動の重要性をトップから発信して活動をサポートしてほしい。



現状、各社にそれぞれ事情はあるものの、我々製薬協としては向かうべき方向を明確にした上で、各企業から大切な人財を輩出してもらえるような体制を整えることが極めて重要であるとかがえています。製薬強PJにおいても機能強化を行いながら、製薬協活動の重要性を強く推進・発信していきます。

製薬協会長
武田薬品工業株式会社 | 宮柱 明日香さん



製薬協の活動がいかにか戦略的に重要かを各企業内で理解してもらうことと、活動に参加するメンバーを社内で適切に評価し、どれだけの人材を製薬協に提供するかということは連動しているので、この両輪を進めていきたい。

製薬協副会長
住友ファーマ株式会社 | 木村 徹さん

Q10 継続的に優れたリーダーを見出し、育成するために何ができるか？



各委員会でのメンバーの活躍を観察したり、タウンホールミーティング等で直接対話をしたりすることで、将来のリーダーを担うポテンシャルの高い人材を見出していければ良いと考えています。

製薬協副会長
中外製薬株式会社 | 奥田 修さん



また、運営委員から副委員長、委員長へと段階的に育成する仕組みを導入し、製薬協での活動をキャリアパスとして定着させることで、やりがいや社内での評価にもつなげていきたいです。

製薬協副会長
塩野義製薬株式会社 | 手代木 功さん

VOICE

参加者の声 (実施後のアンケートより抜粋)

委員会の垣根を越えた連携が進み、多様な視点で議論できることに期待
トップのメッセージを直接聞いたことで、改革を“自分ごと”として捉えられた
「現状維持ではなく、改善し続ける」という意識変革につながる機会だった
社会や社内に対して、製薬協活動の価値がより可視化されることを望む
委員会活動が個人のキャリアや社内評価につながる仕組みが必要

横断的な連携強化により、より機動的で一体感のある組織になることに期待

「戦う製薬協」として、規制改革や提言をリードしていく姿勢に共感

トップの生の声を聞いたことが、大きなモチベーション向上につながった

このような対話の場は、今後も継続してほしい

タウンホールへのご参加ありがとうございました！
変化と挑戦を力に、共創の力で、日本発の創薬イノベーションをさらに前へ。
製薬協はこれからも、皆さんとともに進化し続けていきます。